

## 2021 年度 小委員会活動成果報告

(2022 年 2 月 14 日作成)

小委員会名	拡張排水システム小委員会	
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (建築設備運営委員会)	主 査 名：坂上 恭助 就任年月：2019 年 4 月
設 置 期 間	2019 年 4 月 ～ 2023 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>(設置目的)「拡張排水システム」は、従来型の排水システムを拡張・補完できるシステムとして期待されるが、その技術的・構造的な体系は従来型と大きく異なることから基準などを共通し難い。また認知と普及に課題がある。そこで、学会として体系や基準を示すことによって、その普及拡大を支援していくこと。</p> <p>初年度：出版原稿執筆・適用事例収集 2 年度：出版作業執筆・適用事例整理 3 年度：出版作業支援・AIJES改定作業 4 年度：AIJES 改定作業・適用事例のまとめ</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無： なし</p> <p>主査：坂上恭助 (明治大学) 幹事：古賀誉章 (宇都宮大学)、佐々木敏 (ブリヂストン) 委員：飯塚宏 (日建コンストラクション・マネジメント)、臼井政夫、加藤健一郎 (斎久工業)、久保勝之 (長谷工コーポレーション)、小寺定典 (加倉工業)、榎木剛 (丸一)、高津靖夫 (芝工業)、谷信幸 (アール設計)、前川一郎 (戸田建設)、真山淳哉 (タケノコアイ)、山本慈朗 (ジェス)、大道康之 (積水化学工業)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)	なし	
2021 年度予算	120,000 円	ホームページ公開の有無： あり 委員会 HP アドレス： <a href="http://news-sv.aij.or.jp/kankyo/s36/">http://news-sv.aij.or.jp/kankyo/s36/</a>

項 目	自己評価
委員会開催数	6 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	1. 排水から建築をかえる ―拡張排水システム (小型圧送システム, 真空排水システム, サイホン雨水排水システム, サイホン雑排水システム, 自封トラップ) の設計方法 ― ※2022年5月予定
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 刊行支援作業はやや遅れたが、出版社に入稿され、2022 年 3 月より校正原稿を確認する (90%) 2. AIJ 改定作業にむけて、その方針決定および改定案作成ができた (90%)
委員会活動の問題点・課題	1. コロナ禍で出版社の入稿から校正原稿の確認までに通常より時間を要した。 2. 遠隔会議に対応できない委員は、小委員会に参加できない場合が生じた。

## 2021 年度 小委員会活動 自己評価

### (中間年度評価)

<b>総合評価 (4 段階評価)</b>	A
<b>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</b>	<p>刊行小委員会において外部査読者も含めた十分な査読を実施したため、やや刊行準備作業の遅れが生じた。加えて、コロナ禍により出版社における入稿から校正原稿までに要する期間が通常より長くなったことから、進捗は目標からやや遅れている。</p> <p>しかし、遠隔参加を主として、年度当初計画通り小委員会を6回開催し、昨年度の内部査読結果および今年度の外部査読結果に対して丁寧に対応した。また、AIJの改定作業について、その方針を決定し、改定案を作成することができた。したがって、達成度90%（A）と評価した。</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。